

lanou 長官、テキサス州東部地区弁護士会でトロール問題について演説

2018年11月12日

JETRO NY 知的財産部

柳澤、笠原

米国特許商標庁（USPTO）の Andrei Iancu 長官は、テキサス州東部地区弁護士協会（Eastern District of Texas Bar Association）が10月18日に開催した晩餐会において、「パテントトロールや、トロールが社会を脅かすために使用する悪い特許（the bad patents）を排除しようと熱心に取り組むあまり、特許制度が過剰に修正され、大切なものまで無用なものと一緒に捨てられてしまう恐れがある。我々はそうした取り組みを終わらせ、特許制度にバランスを取り戻す必要がある。」と述べた¹。

演説の中で Iancu 長官は、「特許法を巡る近年の議論は、制度内の欠点、すなわちトロールが積極的に行う弱い特許権の行使に過度に注目するもので、イノベーションをトロールによる特許侵害訴訟から守るという文脈で語られてきた。しかし、実際には、人々に「危険を冒すな。常軌に留まれ」と告げることでイノベーションを滞らせている可能性がある」、「イノベーションは、トーマス・エジソン、アレクサンダー・グラハム・ベル、ライト兄弟など、重要な技術を生み出した発明家らの成功を称賛し奨励することで促される。米国はリスクテイカー、起業家および発明家の国であり、これまで特許制度から多大な恩恵を受けてきた。特許制度を巡る語り口（ナラティブ）は変わらなければならないが、少なくとも庁のナラティブは変化した。庁の焦点は現在、発明家の素晴らしさ、発明の感動、発明がもたらす素晴らしい便益などに当てられている」などと語った。

（以上）

¹ <https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/remarks-director-ianou-eastern-district-texas-bar-association-inaugural-texas>